

仕合わせ

の和

第209号

令和元年 8. 1
(毎月1日発行)

心の中に、

お題目の種を

住職 谷川寛俊

お釈迦様が托鉢されていた時のことです。

農夫が「私は田を耕し、種をまき、雑草を取り、食べ物を収穫しています。では、あなたは何をされているのですか？」と質問しました。

お釈迦様は、「私は人々の心の田を耕し、信仰の種をまき、煩惱の雑草を取り、安穩の境地という収穫を与えています」と、お答えになられたというのです。

日蓮聖人は仏教の根本であるお題目を、お釈迦様から伝えられ、建長5年(1253)4月28日はじめて世の中に示されました。そして文応元年(1260)7月16日、鎌倉幕府の実力者・北条時頼に『立正安国論』を奏進し、正しい仏教によって安穩な国づく

くりをするよう進言されたのです。

鎌倉時代は自然災害や戦争によって苦しんでいました。しかし、現代はそれ以上の底知れない不気味な危機に襲われようとしています。しかし私達1人1人は、そのことに無関心で、誰かが何とかするだろうと考えているのではないのでしょうか？日蓮聖人は「悪積もれば、地獄となる。善積もれば仏となる」とお示しです。一人一人が心の中にお題目の種をまきましよう。そして過度の欲望という雑草を抜き取り、安穩な世界をつくる。ことが日蓮宗徒の使命なのです。

勉強が進み、仕事が上手いきき、人間関係も不思議と好転していきます。それはお題目を唱えるようになって、あなたが輝きだした証拠です。輝きだしたあなたは、その光を周りの人にも分けてあげて下さい。唱える心地良さを教えてあげて下さい。それがあなたの「南無妙法蓮華経」の使命なのです。その南無妙法蓮華経を初めてお唱えになられた日蓮聖人の「日」

真成寺ホームページ

<https://bit.ly/2Gz55Mz>

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でも
お寺につながります。

白な花を咲かすのです。蓮の花は「蓮華」の事で、美しい心を表します。泥沼は私達が住む現実世界のことです。そこに生きて、そこに染まらず、周囲に良い影響を与えていく生き方。それが「南無妙法蓮華経」の生き方なのです。「南無妙法蓮華経」のお題目をいつでも、どこでも唱えて下さい。自分の生活の中で、この部分を一番大切にして下さい。お題目を唱える為に生まれてきて、唱える為に毎日を生きて、唱えぬいて死んでいく。こういう人生観を自然に持つて下さい。そうすれば聞くもの見るもの全てが輝いてくることでしょう。

